



松山学院高等学校

自転車競技部 殿

松山市

■事績

「松山学院 自転車競技部」は 2016 年に愛媛県内で 3 校目の自転車競技部として創設されました。初年度は全日本実業団自転車競技連盟のユース部門の年間チャンピオンをはじめ、小・中学時代に自転車競技で活躍した選手など部員 4 名でのスタートでした。2年目を迎えた 2017 年度には、愛媛県総合体育大会、四国高等学校総合体育大会で個人および団体が優勝し、さらに全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に 5 名が出場。創部 2 年目にしてインターハイでトラック・ロード・総合の 3 部門で優勝(史上初)を勝ち取りました。その後も活躍を続け、2022 年夏に香川県で開催されたインターハイでも総合優勝を決め 5 連覇の偉業を成し遂げました。

創部以来、選手を指導する鮫島浩二監督は、大学まで野球に打ち込み自転車競技は未経験ですが、「日本一になるため」の練習への取り組みや心構えなどを説き心を鍛えてきました。また技術的な指導について大きな存在となっているのが、30 年間競輪選手として活躍(28 年間 S 級)し、日本自転車競技連盟公認自転車競技コーチの資格を持つ菊池仁志氏です。菊池氏はコーチとして選手一人ひとりにあわせたトレーニング指導をするほか、選手たちの自主性を引き出す指導により、選手たちは自主的な早朝練習や率先して道具の後片付けをするなど人間力を高めることも大切にしています。普段の生活で先輩たちが下級生への気配りをするすることで、レース運びでも周りを見る力ができるなど、競技のレベルアップにも良い効果が出ています。

卒業後は自転車競技の強豪大学や最難関ともいわれる競輪学校へ進む選手も多く、中には将来のオリンピック候補として日本自転車競技連盟のナショナルチーム入りを果たした選手もいて、自転車文化が広く浸透する愛媛県で今後のさらなる活躍が期待されています。